

〈特集〉

## ホテル「朝の満足」

セルリアンタワー東急ホテル

ヒルトン東京

ロイヤルパークホテル

横浜ベイシエラトンホテル&タワーズ

浦安フライトンホテル

ホテルインターコンチネンタル 東京ベイ

ドリーミン





友田晶子の  
気になる

# 日本酒

1本50万円!  
商品ではなく作品にしたかった  
「酒蔵秘蔵特別限定大吟醸」真名鶴



酒蔵秘蔵特別限定大吟醸 50万円(税抜)  
※売り上げの一部は東日本大震災の義捐金として  
寄付させていただきます

バブルのころは、超高級日本酒が売られていたらしいが、最近でもっとも高い日本酒といえば10万〜20万円程度。日本酒で、と思えば異常に高い。しかし、ワインとすれば、ま、あるか……という金額だ。なぜ日本酒には高額品がないのか。それは、日常に密着した酒であることや金額の差がつけにくい商品であることなどが理由だと思うが、なんとなく日本酒は高くてはいけないものだという、造り手と飲み手の勝手な思い込みが一番の要因だと思う。

さて、1本50万円の日本酒、詳細はこうだ。

発売元は、福井県大野市、宝暦年

間創業の「真名鶴酒造」。自ら杜氏を勤める五代目蔵元が初めて造った1999年の大吟醸が3つの新酒鑑評会で最高賞を獲得した。今回発売の自身は、そのときの酒を土蔵倉で寝かせた「酒蔵秘蔵特別限定大吟醸」なのだ。入れ物は、田崎昭一郎氏による輪島塗で「鶴と亀」という古典的な金時絵が施された1000mlクリスタルボトル。繊細で緻密な技法は日本伝統工芸ならではの。さらに、漆黒と赤に漆塗りされ「鶴・亀」の金文字が描かれたリール社「Oシリーズ」のグラス2個と格子戸をイメージした飾り箱が付く。

大野のお蔵にて似たような熟成大

吟醸をテイステイングさせていた。いた。

色は、透明感と輝きのある琥珀色。雪に覆われた蔵の温度そのままの冷たさにもかかわらず、ナッツや蜂蜜やドライフルーツのような甘く香ばしい香りが沸き立つ。口に含むと、滑らかでとろりと舌に重く、キンと冷たいものが口中で複雑に絡まりあ、時間とともにゆっくりとエレガントな旨みの花が開いてゆく。余韻はドライで香ばしさが長く長く、長く続く。熟成日本酒にありがちなエグさみないものがまったくない。これはトリプル受賞の技と福井県大

野というテロワールの影響だと思っ。もし、宝石のトパーズを飲めるとしたら、きつとこんな感じかも……。まさに「飲む宝石」といった印象だった。

お酒だけでも、深くやわらかく濃密な味を楽しめるけれど、料理と一緒にならもつといい。皮を香ばしくローストした蜂蜜ソースの鴨、味噌とクリームをたっぷり使ったオマール、黒トリュフをさんだ熟成ブリード・モー。想像しただけでも、舌と心が震えるようだ。

問い合わせ  
真名鶴酒造 ☎0776-66-20000